問題	(一)									(二)				(三)				(四)					(五)			
	1	2	3	4	5		6	7	8	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		1	2	3	4	
	(1)	活用の種類	エ	模倣と習熟による習得	a	b	ア	基礎基本の型に習熟することで、型を越え、自在な創造性を発揮する（ことが可能になるから。）	ウ	かんゆう	はんざつ	うらや（む）	み（る）	演奏	郵便	照れる	栄える	夢	ひびが入る	窯を開ける喜び	a	b	c	そうろう	何しに酢をばかけるや	イ	a	b	c
正答		ウ			自らの身体活動	言葉が身に付く															自分のせい	どんなに落胆していることだろう	勇気をもって進言できなかった	ア					
	(2)	活用形	イ																									
	イ	連用（形）																										

作文			評価項目
内容	表現	表記	
一家多き者	戒壇	投げた大豆をはさむことができる	